



様式第7号(第6条関係)

平成25年 3月31日

薩摩川内市議会
議長 瀬尾 和敬 様
(会派代表者経由)

会 派 名 市民連合
経 理 責 任 者 氏 名 江口 是彦



政務調査費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務調査費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成24年度の政務調査費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務調査費 120,000 円

2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
研 究 研 修 費	109,505	1/21~22高齢社会対策と地方議員の役割 セミナー参加
調 査 旅 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	5,320	社会新報
広 報 費		
広 聴 費		
人 件 費		
事 務 所 費	1,039	トナーインク
そ の 他 の 経 費		
合 計	115,864	

3 残余の額

4,136 円

注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書その他必要な書類を添付すること。

平成25年3月31日

薩摩川内市議会

議長 瀬尾 和敬 様

会派名 市民連合

代表者名 佃 昌樹



政務調査活動報告書

平成24年度政務調査活動報告書を次のとおり提出します。

1 研究研修事業

- ・ 高齢社会対策と地方議員の役割セミナー（日本経営協会）に参加
ア 月 日 平成25年1月22日（火）
イ 場 所 一般社団法人日本経営協会（大阪市西区靱本町184）
ウ 参加者 議員2名（江口 是彦、佃 昌樹）
エ 概 要 平成25年1月24日提出の研修報告のとおり

政務調査研修参加報告書

平成25年1月24日

薩摩川内市議会
議長 瀬尾 和敬 様

会派名 市民連合
代表者名 佃 昌樹



政務調査費によるセミナー(研修)参加を実施したので、
次のとおり報告します。

- 1 研修(セミナー開催)参加年月日
平成25年1月22日(火)午前10:00～午後4:30
- 2 研修(セミナー)参加者
佃 昌樹 江口 是彦 (2名)
- 3 セミナー名称
一般社団法人 日本経営協会 公開セミナー
「高齢社会対策と地方議員の役割セミナー」
～予算・決算書から見えてくる国保・介護事業の実態と解析、
そして模擬議会による実践～
- 4 セミナー開催場所(会場)
大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル
- 5 講師
株式会社行財政総合研究所 代表取締役社長
NPO 法人全国保険者機能評価機構代表
平成24年度厚生労働省保険者機能検討会委員
永翁 幸生 氏

6 セミナーのねらい

我が国の社会保障制度の中で「高齢社会対策」は、今日的課題の最優先事項です。家族、地域、議会、そして行政はこの課題にどう向き合うのか、給付と負担の議論の中で、何が欠落しているのか、議論する時間は多くは残されていません。

本講座では、持続可能な医療・介護制度を確立する上での解決方法を見出すために、特定健診の受診率の低さ、国保保険料収納率の低さなど具体的な例を取り上げながら、今何をなすべきかについて、わかりやすく解説するとともに、3月議会に向けた模擬議会質問・答弁と意見交換を行う時間も設けられている。

7 セミナー・プログラムの内容

- ①. あなたのまちの「地域包括ケアシステム」の課題とポイントについて（介護保健事業計画）
 - ・在宅医療・在宅療養・在宅緩和ケア・在宅看取りの体制と課題
- ②. 特定健診の受診率が伸びない理由
 - ・要介護状態・認知症を防ぐ認識の共有
- ③. 国保・介護保険料の収納率低下と一般会計
 - ・不納欠損、滞納処分、逃げ得
 - ・検診未受診者の医療費
 - ・悪質滞納者の受診状況
- ④. 介護保険・国民健康保健事業を考える
 - ・8兆円超になった介護給付費、介護保健事業に対する評価は。
 - ・日常生活圏ニーズ調査結果の活用等
 - ・介護報酬の不正請求・不正受領の背景は、その対策を考える。
- ⑤. 国保・介護予算は適正に使われているのか
 - ・予算・決算書から見えてくる国保・介護事業の実態と解析
- ⑥. 保険者機能強化について
 - ・患者・被保険者に寄り添うために
- ⑦. 模擬議会（実習）
 - ・想定質問を提示し、グループワークにより模擬議会開催

8 所 感

・講師永翁幸生氏のパワフルな講義にも圧倒されたが、膨大な参考資料（プログラムに沿って1～9までの冊子）も、全てに目を通すには、何ヶ月も掛かってしまうと思うほどの量。せっかく頂いた資料ですから、本市における高齢社会対策に提言できるように活用したい。

・介護予防センター、地域包括支援センターなどの認知度や利用度が低いとの話だったが、薩摩川内市の場合はどうなのか、気になることだった。

・介護基盤緊急整備等臨時特例基金の積み増しを活用しての「地域支え合い体制づくり事業」の現状についても調査したい。地域の中での社会保障制度の基本は、健康老人、虚弱老人、認知症の人を含む要介護者等をどうやって見守ってやれるのかということだと思った。

・現行の社会保障制度の基本的な枠組みが構築された1960年代から今日に至るまでの間に、社会保障制度の前提となる社会経済情勢は大きく変わっている。社会経済情勢が大きく変化する中で、「社会保障と税の一体改革」は、①社会保障の充実・安定化と②財政健全化という我が国にとって待ったなしとなった2大目標を同時に実現するための改革なんでしょう。本市の場合、3月当初予算にどう反映されるのか、注目したい。

・2012年度の社会保障給付費は、約110兆円（対GTP比22.8%）にのぼっており、国の歳出総額（約90兆円）よりも大きい。その給付の内訳は、年金5割、医療3割、福祉（介護等）2割となっており、負担は、保険料6割、公費（税）4割（うち国3割、地方1割）により賄われている。「給付」と「負担」の問題はさておいても、暖かい思いやりと寄り添いのコミュニティーづくりが大事だという事、認識できました。

・地域全体で、高齢者の生活を支えるために、市町村の判断で市町村が主体になってできる事業について先進事例等が紹介されたので、ぜひ参考にしたい。

・2012年度の第5期介護保健事業計画に向けて、保険者は、日常生活圏域ごとにニーズ調査を行うこととなっているが、本市の場合どのように実施されているのでしょうか。気になりました。

・模擬議会でも取り上げられたのですが、健康づくりの意義と持続可能な保険制度の確立の重要性を再認識しました。